

昔のトンボ採り情報 姫路市東山の「エートカキ」
相坂 耕作

ギンヤンマなどヤンマの仲間を採るのに名人によるトンボ釣り等、各地で特色ある採り方が知られている。兵庫県姫路市東山は、播磨地方の海岸近くにあり、池あり山ありのギンヤンマが多産していた地域である。この地域で、約70年ほど前に行われていた、耳なれない「エートカキ」という道具で、ギンヤンマを採る方法があるので紹介したい。この「エートカキ」については姫路昆虫同好会の20周年記念号「遊蟲千年」(1995)に少々触れていたが、尚詳しく分かったのでここに記しておく。なお、遊蟲千年のエートカキとなっているのは誤記によるエートカキの間違いであり、ここで訂正しておきたい。

姫路市東山在住の黒田盛男氏は80歳前後のご高齢であるが、当時の思い出として家永善文氏に「エートカキ」について昨年(2000)体験談を話された。それによると姫路市東山に上池(うわいけ)と大池という池が当時あり、多くは上池で「エートカキ」は行なわれた。腰から胸まで水に入り、ヒシなど水草に止まっているエート(ギンヤンマが雌雄まっすぐにつながったもの)に泳いでいって近づき、上からおおいかぶせて採るのである。その時かぶせる道具の網のことを「エートカキ」[写真：1]という。1メートルあまりの竹竿の先に直径30センチほどの外枠を竹の肉の平たい部分で作った「ひご」を用いて作り、その中へ、たこ糸で亀

甲状に編んでいったもので、底はなく、いわばテニスのラケット状になった道具である。もちろん市販されていないので自分で作っていた。この「エートカキ」を使って2,3回は逃げられるが、たいてい3回目には捕らえられたそうである。一方大池は池が大きく、飛翔範囲が広すぎて上手いかなかったようである。午後1時から4時ぐらいの約3時間で10丁(ちょう：ペア)くらいは通常採れたそうである。その最盛期は地蔵盆の8月23日頃で、数がよく採れたという。採れてからはネズミ捕り(金網製の角型のもの)に入れて持ち帰りながら歩いていると、近所の人が食べるために言っていたのか「焼いてもらえ」とからかわれたという。また、2,3銭で買ってくれたとも聞く。そして、捕らえた雌のギンヤンマはトンボ釣りに使っていた。【注：1】また、水に入っている時、捕らえたギンヤンマは手の指に挟んでおいた。ギンヤンマは川でも採っていたが「エートカキ」は使わずタモ網で採っていたとのことである。

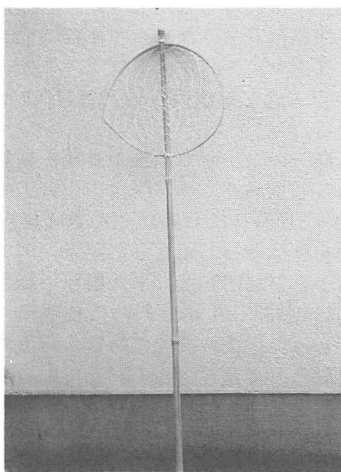
この「エートカキ」の製作はじめ貴重な体験談をお寄せ戴いた、姫路市東山の黒田盛男氏。また、貴重な体験談の情報を提供下さった、前姫路市立姫路科学館長の家永善文氏に深謝申し上げます。

【注：1】東山地区で当時トンボ釣りをするときには口ずさんだトンボ釣り唄を記しておく。

チョウメンモア チョウメンモア
コッチムイテ
イッケントツテ ホイ
コレハ ジョメン ノ
ジャマッカ デ ゴダル
エート エート スワレ

と呪文をとなえてギンヤンマを釣るのである。

※チョウメン(ギンヤンマ)
東山在住 白井克司氏提供



ギンヤンマ採りの網「エートカキ」